



♪CONTENTS♪

- 森の人インタビュー（大北乙佳さん）
- 雲ヶ畑でケヤキを植林
- こだわりの住宅を見学
- 子ども食堂に参加
- 総会が開かれました
- 京都市左京区花脊で新しい山作りに挑戦
- 編集後記

No.39（2017.7.5 発行）

森の人インタビュー

第15回

建築士の大北乙佳さんにインタビューをしてきました。大北さんは、工務店を営むご主人と息子さんと一緒に、京都市北区氷室にお住まいです。建築士になった経緯がとても面白いのですが、それは後ほど。

まず初めに、最近竣工されたお家を見学させていただきました。来客者の宿泊所として設計を依頼されたそうです。お庭で歩みを進めていくと、いよいよ見えてきました。

「か、かわいい…！」

素直な感想が口から滑り出ます。まるでメルヘン物語の主人公になった気分です。しかし、いわゆる作り物といった雰囲気はなく、しっかり周囲の風景に溶け込んでいます。

中に入ると、木の心地よい香りが全身を包みます。天井や壁の板はスギ、構造はヒノキで建てられているそうです。6畳という空間の中に、台所やバストイレ、2階には寝室を備えていながら、閉塞感はまったく感じません。また、階段下の収納スペースやヒノキの窓枠（大北さん作！）など、細かい所にも工夫が見られます。そして、窓の外には自然豊かな風景が広がっています。この庭は、お施主さんがなんと60年かけて手入れされてきたのだとか。その中で作物を育てたり、木を伐って薪作りをしたりもしているそうです。お施主さんが「大北さんは一緒に考えて建ててくれた」と仰っていたのが印象的でした。お施主さんに寄り添う大北さんだからこそ、お庭とも自然に馴染んだお家を建てることのできたのですね。

次に氷室のご自宅でお話を伺いました。大北さんは海外の高校を卒業後、幼い時から夢だった料理屋に就職。その職から離れたのち、大工として実家に入居していた今のご主人を手伝うようになります。現場に出入りするうちに専門的なことを勉強したいと思い、建築士の資格を取られました。木造建築にこだわり、

機能やデザインなどすべての要素を両立させる設計を大事にしているそうです。また、氷室での生活についても伺いました。氷室はご自身や旦那さんの出身地ではなかったため、村の掃除などに加わり、徐々に地域に馴染んでいったそうです。「氷室の人はいい人ばかりで子育てを歓迎してくれる」と仰っていました。そして、自宅からはヒノキ林と水田が共存する見事な景色が見えるのですが、この景色は、村の人の努力の結晶だと住んでみてわかったそうです。

インタビュー中に「田舎暮らしいいなあ」と漠然と言っていたら、どんな生活でも覚悟は必要との助言が。夢見る少女はそろそろ卒業しようと思いました。（丸山）



インタビューをお受けいただいた大北さん。自宅近くの作業所にて



最近竣工されたお家



ケヤキを植林中

雲ヶ畑でケヤキを植林

2月26日に雲ヶ畑で山仕事サークル杉良太郎のメンバーとともにケヤキの植林を行いました。昨年はドングリを、その前はアカマツと広葉樹を植林した山で、今年はケヤキを植林させていただきました。当日はとてもいい天気の日で、道中雪の残っている場所もありましたが、現場は南向きだったので雪もなく気持ちよく作業ができました。

現場に着いて軽く休憩したのち、山主さんから本日の作業の説明を受けました。そもそも今回の作業地はケヤキの植林地にはあまり向いていないようです。それでも山主さんのこの山を広葉樹の楽しい山にしたいという希望があって植林することになったそうです。

ケヤキは鹿が好んで食べるようで、植えた苗の周りをネットで囲います。ここにも工夫があります。普通は苗の周りを一つのネットでぐるりと覆ってしまうのですが、この方法では苗が十分に成長できるための空間がなく盆栽のようになってしまいます。そこで今回は苗の周りに三本の支柱を立てその支柱の間にネットを張りました。この方法だとネットで囲われた部分の面積が一枚で丸く囲う場合の9倍以上になります。手間とネット代はこちらのほうがかかりますが、木にとっては良いと思います。

今回植林したケヤキが成林するまでには少なくとも20年くらいかかるそうです。その頃、作業をした僕らは全員40歳代です。まったく想像ができません。相変わらず山の仕事はロマンがあるなぁと思いました。今回も多くの方に協力していただきました。ありがとうございます。(瀬戸山)

こだわりの住宅を見学

4月23日に大阪府吹田市の住宅見学に行きました。施主の方は建築士をされており、木の伐採、製材に立ち会い、設計も自分でされました。百年の会が山主さんを紹介するなど木材の調達に関わった縁で見学させていただきました。

ワクワクしながら門を入ると、まずは中庭が出迎えてくれました。真ん中にコナラやミツバツツジが植わっており、アプローチに敷かれた瓦、青のタイル、赤のやかん、と様々な形と色で楽しくなります。中に入ると、目を引くのがキッチンのヒノキの枝つき独立柱。そして杉の一枚板のテーブルがあります。床板にはナラが使われています。窓枠や扉にもベイスギを使っています。

レンガタイルが張られた壁柱もまた魅力的です。階段は螺旋階段で階段上には天窓がついていました。2階に上がると、寝室、風呂があるのですが、窓から光が差し込み非常に明るいです。この日は天気も良く、2階に限らず住宅のどこにいても照明が要らないほどでした。さらになんと、子供の憧れ、ロフトもありました。ロフトの床板にはスギが使われています。

全体に目を向けると、この住宅の壁の納め方は大壁ですので、木の柱は見えません。しかし、京都産のスギの桁や梁がむき出しになっていて大きな存在感を放っており、木構造を実感します。使われている木の種類や形にこだわりがあり、タイル、瓦、レンガなど様々な素材が組み合わせられ、そこにいる人を楽しませてくれる気持ちの良い空間ができていました。見学させていただき、本当にありがとうございました。(衣笠)



窓から光を取り入れた明るい2階の部屋

子ども食堂に参加しました

北野白梅町にある日替わり店長の店、「魔法にかかったロバ」(まほロバ)では月に一回、子ども食堂が開かれています。子ども食堂とは、子どもに無償で食事を提供するお店。満身に食事をとることのできない子どもを助けたり、隣近所の子どもの交流の場となったりする福祉的役割を担っています。

5月5日、子どもの日。子ども食堂@まほロバは、子どもの日スペシャルということで塾・studio あおさんや他のまほロバ店長である宮島さんと津田さんとともに私たち百年の会もゲストとして参加しました。

私たちは京都産の材を使った積み木を持っていき、子どもたちに遊んでもらいました。天井に届くかというほど高く積み上げる子、豊かな発想で船やタワーを作ったりする子。皆楽しんでくれたようで何よりでした。

晩ご飯には鹿肉を提供し、食堂スタッフの方に鹿肉カレーにいただきました。普段なかなか味わうことのできない山の恵みは、子供たちにも大人たちにも好評でした。

その他、山と森にまつわる紙芝居を見せたり、参加スタッフの特技であるバルーンアートを作ったりしながら、子どもたちに楽しんでもらいました。

街中に暮らしていると、いろいろなところで森の恵みを享受しているのに、なかなかそれを実感することはありません。今回の子ども食堂で、鹿肉や積み木、紙芝居などを通して、少しでも子どもたちにそれを感じてもらえたならばうれしく思います。

学生スタッフとしても、子ども食堂という福祉関連の取り組みにかかわり、新たな視点を獲得ことができ、とても良い経験になりました。(柏元)



積み木を楽しむ子どもたち



講演する中川さん

総会が開かれました

□5月29日に、ひと・まち交流館京都で、2017年度の百年の会の総会が開かれました。今年は会員外の方の参加もあり、15人前後の出席となりました。まずは参加者の自己紹介を行い、その中で新たな学生事務局員の紹介も行いました。事務局の顔触れも増え、今までよりも活発な1年になればと願っています。

□総会前には、記念講演として、百年の会とのつながりが強い元花背製材の中川さんにお話していただきました。地元の資源を活用し、地元で雇用を生むという理念のもと、花背で製材所を開き、花背の天然のモミの木を構造材として長年京都に供給してこられたそうです。総会の理事の挨拶でも、中川さんのところで製材された材によって既成概念が打ち破られたエピソードが言及されていました。今そこにあるものを、工夫して利用するという信念を勉強させていただきました。

□総会後に代表理事の田村さんからは、久々に岡山県西粟倉村を見学すると森の学校のスペースがウナギの養殖場になっていたとか、水槽のボイラーに木質チップを使うプランがあるといった話が聞けました。時代とともに課題が移り変わり、当会も府内産材の認証事業から別の方向へ発展しようとしています。総合的な木のコーディネーターとして、事務局の前田さんが各世代をつなぐ役割を果たすなど、これまでの取り組みの中でつながりを持ち続けている点を強調されていました。今回講演して下さった中川さんも加えて、これまでとは違う展望を持ちながら、会員の平均年齢が上がっても会が存在感を持ち続けてほしいと思います。

□今年度もどうぞよろしくお願いいたします。(青山・野瀬)

京都市左京区花脊で新しい山作りに挑戦

事務局に今年の3月下旬に会員の物部さんから自分の所有森林で新しい発想で森林の整備ができないだろうかとの相談がありました。物部さんが所有する左京区花脊の住居の背後に広がる5ヘクタールほどの森林を「多くの人に関わってもらいながら、楽しく有意義な森林に育成することができないだろうか」という内容です。

そこで、5月17日に左京区松ヶ崎のアピカル・イン京都に百年の会以外にこの森作りに関わってもらえそうな団体に集まっていただき、打合せ会議を行いました。集まった団体は、京都府立大学の森なかま、林業女子会@京都、山仕事サークル杉良太郎と百年の会でした。現在、この打合せでお聞きした物部さんの提案を各団体に持ち帰り、花脊での新しい山づくりにどのようなアイデアや思いで参加するのか否かを検討していただいています。

この検討結果を7月から8月に持ち寄って相談を行い、可能であれば参加団体で新たな協議団体を立ち上げることを予定しています。



大径木が並ぶ物部さんの所有山林

物部さんから提案のあった区域には120年生の杉林や広葉樹林もあるなど魅力的な森林です。

まだまだ、決まっていないことも多い取り組みですが、百年の会としても会員の皆さんの参加をいただきながら、この機会を生かし、新しい発想で森林の整備の実験場として真剣に楽しく向き合っていきたいと考えています。(白石)

★ライフ・アンド・フォレスト 2018★

本年度は2018年1月7日に昨年までと同じキャンパスプラザ京都で開催します。

コーディネーターやパネラーを選定中です。ご意見やアドバイスなどがあれば事務局までお寄せください。よろしくお願いいたします。

京都・森と住まい百年の会
会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO 法人京都・森と住まい百年の会をご紹介します。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

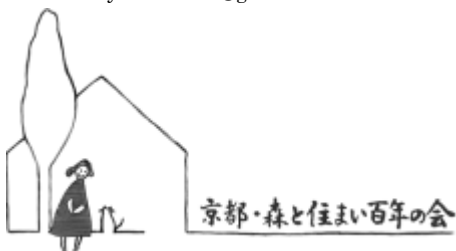
ホームページ<<http://www.kyoto100.com/>>

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

FAX : 050-3309-6365

E-mail: kyoto100nen@gmail.com



編集後記

今号は紙面の都合で森林・林業小話を休載しました。



本紙は、平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」の助成を受けて発行します。